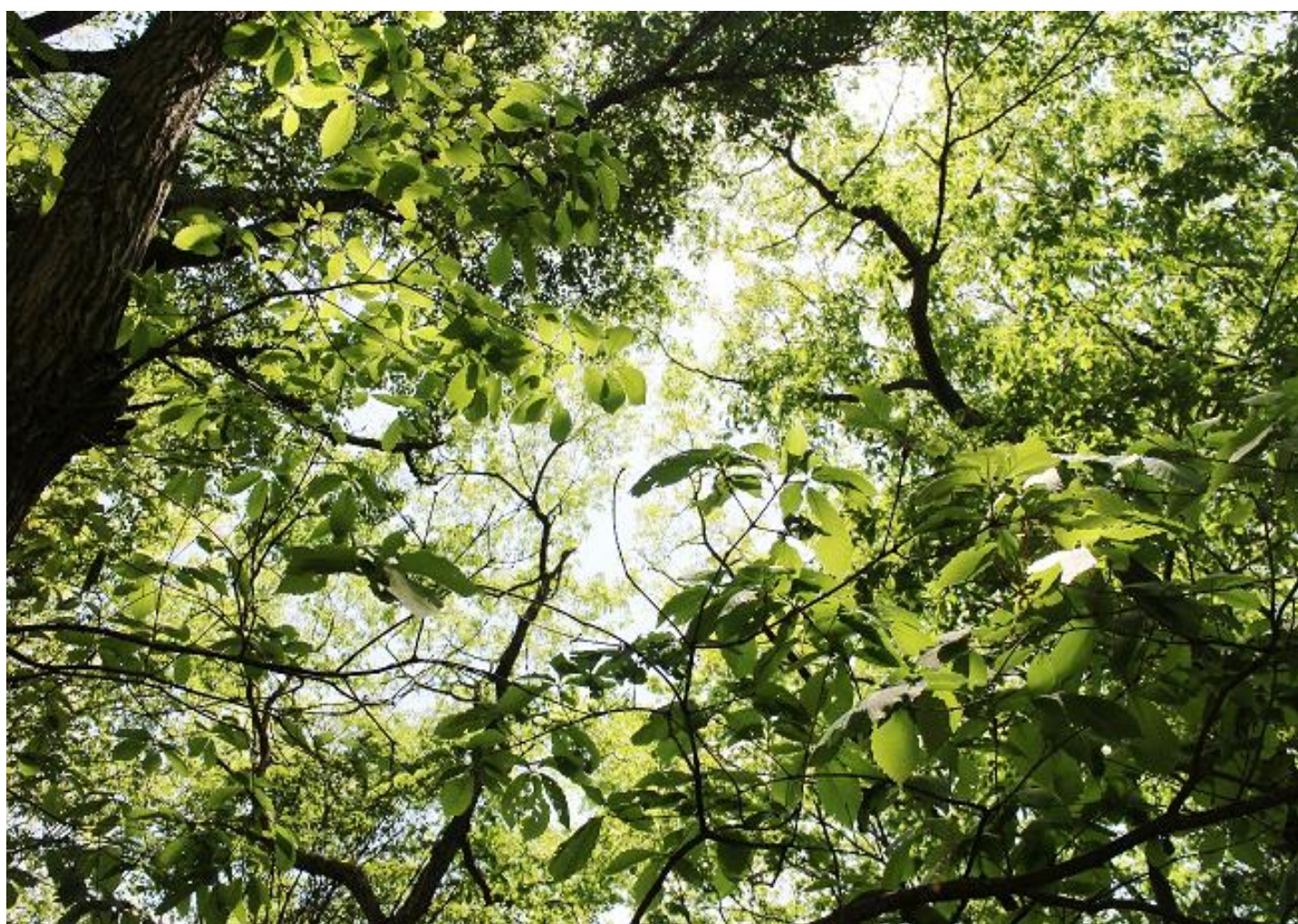


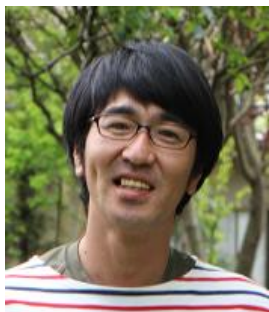
平成27年度

事業報告書



特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地

NPO法人トチギ環境未来基地の目指すことと、今年度の成果



代表理事
塚本 竜也

NPO法人トチギ環境未来基地も設立から6年が経ちました。中期計画を立て長期的な視点を持ちながら活動を行ってきましたが、東日本大震災などの大きな出来事もあり当初計画していたことでできなかったこと、まだ実現していないこともあります。今年度は目指していた方向性のいくつかを具体的に前に進めることができました。

1つは、森林・里山保全のための新しい仕組みづくりとして、若者たちのチームによる長期間の滞在型環境保全プログラム＝Conservation Corpsプログラムの開発と普及です。若者たちが入れ替わりはあっても、いつも地域にいるシステムをつくり、人手不足により手入れができない里山、森林の整備を進めていきます。このプログラムも今年度で通算15回の開催を迎えることができました。日本各地で類似プログラムを行う団体と協力し、Japan Conservation Corps Networkを設立することができました。

2つ目は、森林×異分野を組み合わせ、森林の価値を高めるという試みです。木材の利用を進め、産業としての林業を復活させていくことも大変重要ではありますが、これからの森林、特に身近な森林や里山を保全していくためには、森林や里山の経済的以外の価値(公益的機能や、新たな利用価値)を高めていくことがとても大切です。そのためのキーワードは「参加」と「異分野」だと考えています。その森林に関わる人たちとどんな森林にするかを一緒に考え、整備を進めていくその過程と、整備できた森林を様々な人たちと活用していくプログラムを開発していくこと。例えば、福祉と森林、教育と森林、こどもの貧困と森林など、社会の重要テーマに対して、森林を舞台にどんなことができるかを考えていくことがこれからますます重要だと考えています。今年度は、益子町で「福祉の森づくり」を進めることができました。

3つ目は、若者と他団体をつなぐ、です。今年度もたくさんの若者が活動に参加してくれました。日本の森林ボランティア団体の現在最大の課題は、若者の不足、メンバーの高齢化です。とても有意義な活動をつくり、継続してきた団体もバトンタッチができず活動が途絶えてしまう可能性があります。やる気のある若者たちをいかにそのような団体とつなぎ、バトンタッチをできる仕組みをつくっていくかというのはとても大切なことです。今年度は地球環境基金の助成を受け、若者とベテラン団体をつなぐマッチング制度づくりにも着手することができました。今後よりよい仕組みを構築し、解決策の一つとして定着をさせていきたいと思っています。

このように今年度もいくつかを形にして、前に進めることができました。しかしまだまだ手つかずの領域が多く、潜在的な可能性がたくさんあると実感しています。これもできたらいい、これもやりたいというアイデアの種も多数ありますが、事務局も小さくスタッフも少ないので同時にできることは限られています。やるべきことの優先順位や重要なポイントを見極めながら効果的に活動を進めていくとともに、より多くのことを実現していくことができるように団体自体の強化にも力をいれていきたいと思っています。

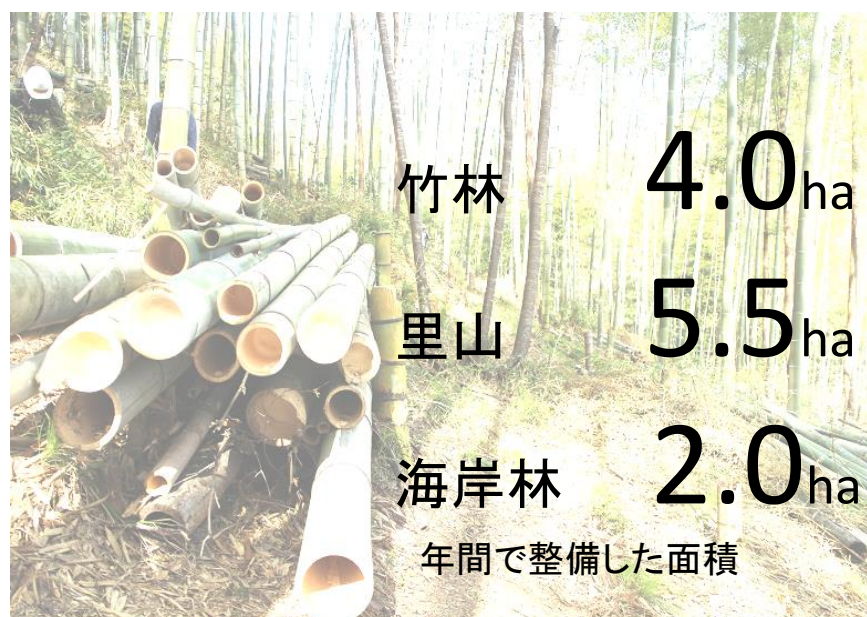
最後に全ての活動は参加いただくボランティアの皆様、ご支援いただく皆様のご協力により成り立っています。今年度もたくさんのご支援、ご協力をいただきありがとうございました。

栃木県内の自然環境を守るために、団体を設立して6年がたちました。

今まで、多くの方々に協力いただきながら、県内各地の森林を整備し、地域の方々と一緒に活動をつくっていきました。中でも、貴重な3ヶ月間という時間を活動に費やしてくれて汗を流して整備を続けた長期間ボランティアのみんながいたからこそ、今の活動があります。

いつも応援してくださる皆様の期待に応えられるよう、これからも、継続的に整備活動ができる仕組みをつくっていきます。

活動成果



活動フィールド 一覧



竹林整備 （茂木町、益子町）

茂木町の竹原地域の整備では、過密に生えてしまっている竹の伐採をして、小さく切った竹は土留めにしています。作業の内容はシンプルで、初めての方でも一緒に作業できるので、大学生や企業のボランティアの方々にも作業に協力いただきました。「竹を倒したときの爽快感がすき！」と、一番ボランティアのリピーターが多い作業場所のひとつです。そのほかにもイベント出展で、竹ぽっくりやけん玉などを作り、活動を伝えるときに活躍しました。



美里学園の森 （益子町）

今年から活動が始まった場所で、美里学園という障がい者の方の施設に隣接する森です。杉を中心とした人工林で、間伐、草刈、遊歩道の整備、枯れた木の片づけなどの整備を行い、歩ける場所が広がりました。以前からあるシイタケの原木も、森のシンボルのように並んでいます。来年度も整備は継続し、春には親子向け自然体験イベント、Green Gift プロジェクトの活動場所にもなります。



希望の丘 （市貝町）

希望の丘も、今年から活動が始まった場所です。廃校になってしまった旧小貝中央小学校の裏の高台にある雑木林です。年間を通して草刈、階段の補修、学童の子どもたちの遊び場もつくっています。3月には地域の方々に向けて、お披露目会を実施しました。町長や地域の区長の方、そして子どもたちに喜んでいただきました。作業日に雨になることも多い現場でしたが、長期ボランティアの思いやアイデアも詰まった場所です。来年度も継続して整備していきます。



創造の森 （宇都宮市）

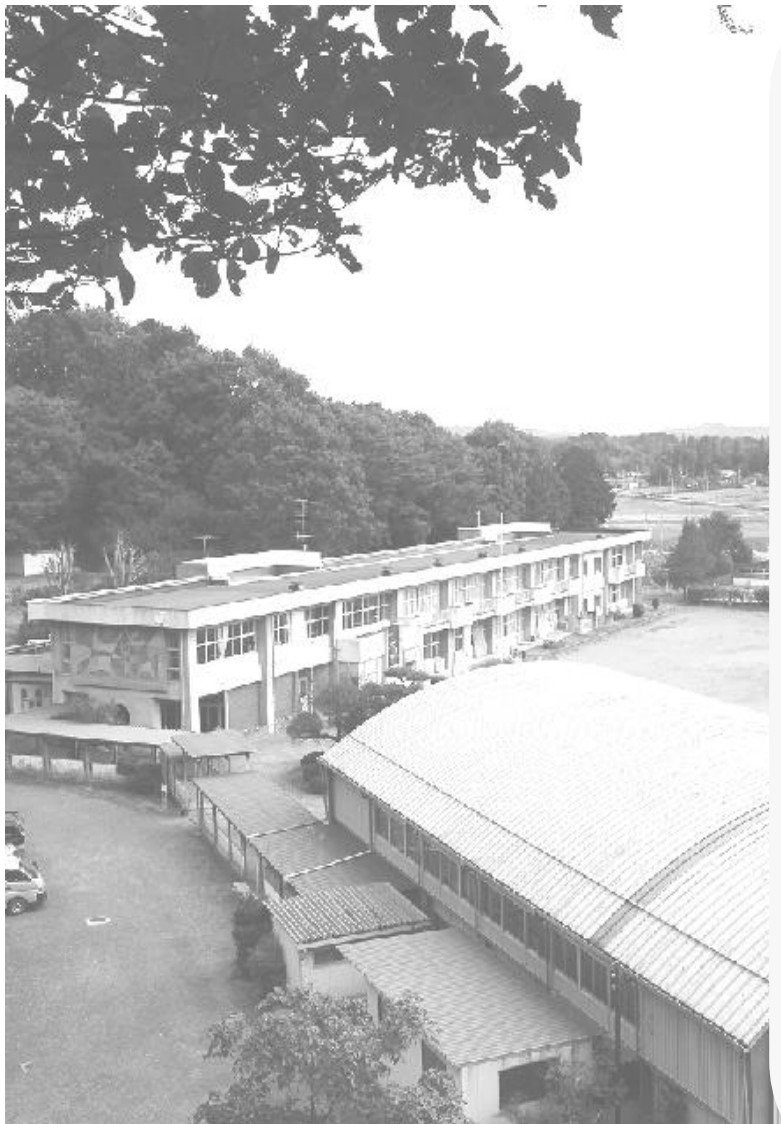
6年目となった創造の森の整備では、風と緑の認定こども園の子どもたちに親しまれている森です。年に一回、秋に自然を楽しむイベントの企画と運営をして、虫や葉っぱなどを使って遊びの機会もあります。今年は、カブトムシの家にカブトムシもでてきて、5cm程度の幼虫がたくさんいて、子どもたちも少しおそれながらも、触ってみたり、観察したり、とまた人気の場所が増えました。



あさひが丘・平出神社裏の林 （宇都宮市）

住宅地に残った雑木林を整備して、地域に開かれた自然公園となっているあさひが丘。地域の子子どもたちが自由に遊びに来るだけでなく、ペタングの競技スペースがあったり、夏の宇都宮花火大会の鑑賞会があったり、いろいろな形で森を訪れる方が多い場所です。遊び場の補修や草刈など、管理の手入りを主に行いました。

地域で学び舎を守る、希望の丘の整備がはじまりました。 —旧小貝中央小学校



旧小貝中央小学校は、閉校になる前から全国緑化コンクールで受賞するように自然があふれる学校として地域の皆さんから愛されてきました。現在はNPO法人いちかい子育てネット羽ばたきさんが学校の指定管理を受けて管理をしていますが、なかなか森の整備まで手が行き届かないと困っていました。

そんな話を聞く機会があり、私たちと一緒に整備と森の中での遊び場づくりをできないか？という提案をしたことがきっかけで、活動がはじまりました。

元々市貝町で管理をしている場所ということもあって、荒れ放題の状態にはなっていませんでしたが、草刈や間伐、遊歩道の補修などをする必要がありました。8月には羽ばたきさんの学童保育の子どもたちを対象にして森の整備体験とゲームをして交流したり、10月には地域の方々にも手伝っていただいて一斉草刈りを行ったり、いろいろな方と森の整備活動をおこないました。

今では子どもたちも、「あ、森の人たちだ！」と覚えてくれて、私たちもみなさんに会うのを楽しみにしています。

森の整備をするというと、多くの人は草を刈る、木を切るという具体的な作業をイメージするかもしれませんが、それだけではなく、人とのつながり、会話が生まれるのも整備の醍醐味です。

3月19日は希望の丘お披露目会、地域の子どもたちや町長もきてもらい、集う場に

春から整備をしてきましたが、活動のひとつの節目として3月19日(土)に希望の丘のお披露目会を行いました。小雨も降り、あいにくの天気となりましたが、子どもたちや地域の方、町長など 30人ほどが集まり、森の完成を披露することができました。地域の方からは、「昔からこの地域のみんなに愛されてきた小学校の山をきれいにしてもらってうれしい。ぜひ継続してきれいに守っていきたい。」という言葉いただきました。森からおりとくも子どもたちも「まだ遊びたい！」と森で遊ぶのを楽しみにしています。

草刈りや切った竹や草のチップの機械での破碎など、大変な作業もありましたが、その分みなさんの笑顔があふれていて、私たちもととてもうれしい気持ちです。





事業ハイライト 長期間環境保全ボランティア がもたらすもの (Conservation Corps Program)

Conservation Corpsプログラムは、3ヶ月間、若者ボランティアが共同生活をしながら、環境保全活動を行うプログラムで年に2～3回行っています。

地域で活躍できるリーダーを育んでいます。

《 平成27年度の実施期間 》

- 12 期 4月20日(月)～7月10日(金) 3名(日本、香港)
- 13 期 9月14日(月)～12月4日(金) 3名(日本、ベトナム)
- 14 期 1月13日(水)～3月21日(日) 3名(日本、ベトナム、タイ)

活動場所 : 5ヶ所の活動フィールドを中心にいきます。
金曜日は学習の日。他のNPOの視察や、リーダートレーニング研修など

スケジュール : 火曜日～日曜日までそれぞれの活動フィールドに出かけます。1日の目標を共有して整備に汗を流します。
月曜日はお休み

宿泊施設 : 明在庵(トチギ環境未来基地の事務局がある古民家)

共同生活 : みんなで分担しながら、自炊、掃除などをして生活。
いろりを囲んで、語り明かすこともあります。



若者が地域に長期間作業やイベントを通して、多くの人に出会います。
そこには、地域の自然を守りたいと頑張っている人生の先輩方がいます。

草を刈り、木を切って森をきれいにします。
その作業の横にはいつも会話があり、その先には新しい価値やつながりが生まれます。

参加した若者は多くのことを実践的に学びます。道具の使い方からはじまり、多年齢、多国籍のチームで目標に向かって活動をするために必要なことを得て、次の人生のステップを描いていきます。

私たちの長期間ボランティアの地道な活動の先に、未来があります。



Conservation Corpsプログラム(長期環境保全ボランティア)の声



Parin さん
(タイ出身)

長期間でワークキャンプのボランティアに参加するのは今回が初めてでした。日本を選んだ理由としては、自然や環境のなかで作業するのが好きだったからです。

私は都会で育ったため、ここでの作業はすべてが新鮮でした。私は、常に新しいことにチャレンジするのが好きです。「毎日が学びである」が座右の銘です。

活動場所ではのこぎりやナタの使い方を学んだり、日本の森について学び、また文化交流なども行いました。メンバーとの生活の中でも、自分のコミュニケーションの癖を認識できました。例えば、聞いたことを繰り返して言うことが多く、リーダーなどから「話をどうして聞いてないんだ？」と言われてしまうことがありました。お互いの認識の違いもありましたが、少しずつより良くコミュニケーションができるようになりました。このような経験も長期間、他人と共同生活をしたからこそ、感じて気づくことができたことです。

最も楽しかった思い出は、地域の方々と作業したり、交流したことでした。本では得られない、特別な学びを彼らから得ました。

日本の人々は結束が強く、何事にも最善を尽くしていましたのが印象的でした。



富田 諒さん
(和歌山県出身)

僕は森づくりに興味があって参加したわけではなかったのですが、いろいろと成長することができました。一つ目は技術面です。ここに参加する前は鋸も鉋も使ったことがなかったのですが、今では数々のワークを通して腕があがったと思います。チェーンソーもベテランの方の指導のもと、小さい木を倒して玉切りもできるようになりました。森の中に遊歩道を作っていくプロセスも勉強でき、いろいろな種類の遊具の作り方も学びました。生活面では料理の腕もあがりました。

二つ目はリーダーシップが身についたことです。希望の丘の整備でリーダーを務めたことで、遊具などの下準備から指導、制作までメンバーやスタッフの方々と協力して行いました。最後の希望の丘では、一般のボランティアと一緒に活動する中で、リーダーとして1日仕切りました。あいさつにはじまり、スケジュール管理から進捗状況の把握、指導などをやらせていただく中で、リーダーシップ力が磨かれました。反省点もたくさん出ましたが、今後いろいろな場面で活かせると思います。

森とか竹林とか遠い存在であり意識したことがなかったのですが、3ヶ月汗をかいて働くことで、いつも何気なく見ていた森、竹林はいつも誰かが整備してくれていたんだとありがたみを感じるようになりました。今後森をみるときに、竹の浸食に脅かされていないか気にしてしまうと思います。そういった森の人の視点を身に着けることができたのが大きい成長です。

森づくりは、天候に左右されたり、体を使ったり、思い通りにならなかったり楽ではないのですが、チャレンジングでやりがいのあることだと思います。自分をこんなに成長させてくれた未来基地のみなさん、ありがとうございます。



小泉 彩さん
(静岡県出身)

活動を振り返って、メンバーとのコミュニケーションや協力という点において難しかったと感じました。

自分の先入観もあり、ボランティアに来る人は協調性や好奇心がすごくあり、アグレッシブな人が集まるイメージがありました。実際に集まったのは本当に多様なメンバーで、そのギャップもあり驚きやいろいろなストレスもあり途中で帰りたい気持ちもありました。自分のことを他人から注意されることもなかったので、そういう気持ちが出ていたのかもしれない。

でも、ワーク作業に関しては本当に楽しかったです。ボランティアの醍醐味はいろいろなひとに会えることです。良いこともあったこともすべて意味があるのかなと思います。今までの自分は小さいことでもすぐに怒ってしまうこともありましたが、今回のボランティアでは時には感情を抑える、冷静を保つということも意識して過ごせるようになりました。そういう意味では成長できたと思います。

また違うメンバーともボランティアをしてみたいという気持ちもうまれました。またどこかでボランティア活動をしているのかもしれない。



荻野 友香里さん
(広島県出身)

安定や常識を重視することに違和感を持ち、興味のあったNPOへの転職を考えていた時、森林保全をしながらリーダーシップ等についても学べる長期ボランティアがあると知りました。日本人でありながら日本の事を何も知らないと感じていたこともあり、あまりボランティアの経験のない私にとって学ぶ場も必要だと感じ参加を決めました。

今回リーダーとしてこのプログラムに参加できたことはとても大きかったです。多くのチャンスを頂き、試行錯誤しながらも自分で考え挑戦をしてきました。経験を増やすことで知識が増え、アイデアが豊富になりできる事が1つ1つ増える、そうやって成長をこれからも続けていける自信つけることが出来ました。

プログラム中から強く思うことは、もっと多くの人にこの素晴らしい活動を知ってほしいという事です。その為にはもっと発信していかなければいけないし多くの人に実際に来て体験してもらう機会をもっと作らなければいけないと感じています。私を大きく成長させてくれるボランティアについて家族や友達を含め、もっと多くの人にこの活動を伝えていきたいです。そしてゆくゆくはやはり私にとってとても大切な故郷、広島で多くの人がこういった活動に参加できる環境を作りたいと考えています。



長期間チームで活動するからこそ
うまれる絆があります。お互いの力を
高めあって地域に貢献していきます。

新しい森のカタチ テーマのある森づくり

森を舞台にして、他の分野と協働すること



昨年も2～4月まで受け入れたJAVSプログラム(Japan ASEAN Voluntary Service)を通して、1～3月の3ヶ月間3人がやってきました。通常の長期ボランティアの公用語は日本語ですが、JAVSプログラムでは英語で行いました。彼らの多くは彼らの国でのNPOの職員やボランティアを務めている人たちで、NPOマネジメントやリーダーシップに関心が高いです。

昨年、自分の国の紹介をもっと伝える機会が積極的にあればよかったというフィードバックも活かして、今年は、Let's be a volunteer! という交流イベント、International 竹切り新年会や、会員向けのイベントであるファミリーの集い、そして、高校生のための英語で森づくりキャンプを実施しました。

英語・日本語の2か国語でしたが、それぞれのイベントが成功し、多くの方に整備ボランティアの重要性や

気軽さを伝えることができました。アジアからのボランティアのスキルが十分に発揮し、素晴らしい関係性を築けました。ときに、言葉を超えたつながりだからこそ、新しいものをうみだす大きな力になることを確信しています。



非常時に動けるチームをつくる

台風18号大雨災害 とちぎ災害支援チーム “ユース500”

9月10日、台風18号の影響による大雨により栃木県内各地で被害がでました。栃木県発表の被害状況のとりまとめ資料によると、人的被害は、死者3人、負傷者5人建物への被害は全壊23棟、床上浸水2,277棟と大きな被害となりました。災害直後は、特に平日のボランティアが足りない中で、大学生や幣団体のボランティアに声掛けをして復旧ボランティアにはいりました。通常の業務以外で動くことは簡単ではないですが、日ごろからの他のNPOとの協力もあり、12月まで依頼のあった方のお宅の片づけや泥だしを行いました。

活動日数 : 58日
ボランティア数: 804人 (2015年12月15日現在)
県内、県外多くの皆様にご協力いただきました。

とちぎ災害支援チーム “ユース500” 構成団体

NPO法人トチギ環境未来基地、NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク、かぬま市民活動広場 ふらっと

協力:とちぎYMCA 一般社団法人栃木県若年者支援機構、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房



側溝の泥だしの様子

この活動は日本財団の助成を受け実施しました。

高齢化する森づくりボランティア団体を支える

将来にわたり日本の豊かで美しい森林、里山を保全していくためには、森林、里山ボランティア活動の継続、発展は不可欠です。森林ボランティア団体は年々増加していますが、ボランティア参加者の51%は60才以上というのが現状で、活動団体の多くは、「高齢化」、「後継者不足」の課題を抱えています。

この課題を克服するためには、若者を活動に巻き込み、担い手としての力をつけ、団体にマッチング（派遣）し、協力して活動を運営していくことを支える、という仕組みが必要であり、その仕組み作りに平成27年度より地球環境基金の助成を受け着手しました。3年で仕組みを完成させることを目標としています。



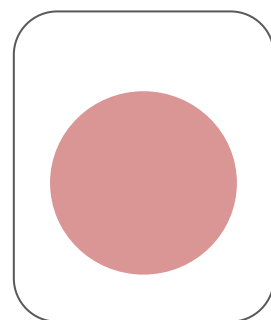
森づくり活動に関心のある若者



活動に参加



座学と実地研修に参加



メンバーの高齢化に課題を抱える団体にマッチング

平成27年度の実績

具体的なステップとしては、① 若者の森林・里山ボランティア活動の機会を増やす。参加者を増やす。（裾野を広げる）、② 若者トレーニングプログラムの実施（担い手を増やす、力をつける）、③ 団体向け「若者と上手に活動するための研修」を実施、活動④ 若者と団体のマッチング機会（派遣）を作ることと設定しました。

①の若者の森林・里山ボランティア活動の機会を増やす、参加者を増やす取り組みにおいては、延べ1,618人の参加者とともに活動を行うことができました。

②の若者トレーニングプログラムは、9月、11月、2月にそれぞれ2日間の研修を行い、17人の参加者を得て実施することができました。

③の団体向け研修は、研修を実施するための基礎情報として県内の森林ボランティア団体の活動状況やメンバー構成を調べリストにまとめることができました。うち、すでに関係性のある2団体へ研修を行いました。



森林ボランティア は組織を変えられるか

企業や団体のグループでの受け入れ

それぞれの活動場所で担い手は個人のボランティアはもちろん、グループ単位での受け入れも行いました。整備活動のベテランから、はじめての方までいろんな人が一緒に活動するのが特徴です。

ホンダトレーディング株式会社さま ボランティア、新人研修で来てくださっています

期間：7月13日(月)～15日(水)、11月16日(月)～18日(水)、2月15日(月)～19日(金)

去年から引き続き受け入れているホンダトレーディング株式会社さんは「栃木県にホンダ技研があることもあり、栃木県で地域の貢献をしたい。」ということから弊団体の活動に来てくださっています。今年は年2回の社員ボランティアとして2泊3日で、そして新人研修として1週間きてくださいました。暑い夏も寒い冬も季節に負けずに一生懸命作業に取り組んでくださいました。

* 共催:NPO法人NICE(日本国際ワークキャンプセンター)



整備した場所で子どもが遊ぶのを見守ります

森づくりからコミュニケーションを学ぶ

～若者自立支援団体との連携による森づくり～

(栃木県若年者支援機構) 7月13日(月)～19日(金)、10月5日(月)～9日(金)、
1月18日(月)～22日(金) + 各回、日帰り3回を実施
(とちぎ青少年自立援助センター) 7月27日(月)～31日(金)、10月26日(月)～30日(金)

今年も若者自立支援団体と連携しながら、プログラムを行いました。1週間プログラムでは、基本的な生活と食事づくり、コミュニケーションの練習も兼ねています。森での活動は、チームでの仕事の仕方を学ぶだけでなく、体力をつけることや興味を広げるために役立っているようです。

英語のみ話せる長期ボランティアなどとも一緒に作業をすることもあります。「自分はシャイです。」と言いながらも、日本語と英語で片言でも会話が成り立つ場面も多くありました。まさに「実践的な学び」が活きた瞬間でした。



作業の中でみんなの会話も自然と増えます

◆ 企業、団体での受け入れ一覧(敬称略) ◆

- ホンダトレーディング株式会社
- 企業(匿名希望)
- NPO法人NICE(日本国際ワークキャンプセンター)
- 市貝町ふじやまを保存する会
- 森林・竹林・里山を整備する仲間の会
- 作新学院大学 先生・学生
- 一般社団法人 栃木県若年者支援機構
- 一般社団法人 とちぎ青少年自立援助センター
- とちぎ学生未来創造会議

企業や団体のグループでの受け入れのお問い合わせは常時受け付けています。

まずは事務局までお問い合わせください。

0285-81-5373

「苗木 for いわき」プロジェクト

「苗木forいわき」プロジェクトは津波により被害を受けた海岸林の再生を市民の力で応援していこう、という目的で平成24年6月にスタートしました。当初のいわき市の海岸林の被害状況はそれほど大きくはなかったのですが、時間の経過とともに枯れるクロマツが増え、いまでは一帯の海岸林の7-8割が消失してしまいました。枯れるスピードの速さに困惑しながらも、多くの方々のご支援、ご協力を賜り、コソコソと整備、植林を続けてまいりました。

平成27年度も、企業、団体、個人など様々な方々に活動にご参加いただきました。整備作業と植林作業は42回活動を行い、延べ1,211人のボランティアと作業しました。

植林を進めるための整備作業はスタートから現在まで約4haを終え、植林は約14,000本行うことができました。

大学生など若い人たちが何度も活動に参加してくれていることも大きな希望です。単に海岸林を再生するというだけでなく、私たちの財産である環境を自らの力で良くしていこうという姿勢や行動はこれからの社会をより良いものにするためにとても大切なことだと考えています。誰かがやってくれるだろう、ではなく、できることがあれば自分たちでやってみよう、という若い人たちが増えている手ごたえもこのプロジェクトの実施を通じて感じることができました。

次の目標は、より地元の人たちが取り組む活動への転換です。

ここまでのプロジェクトは県外からのたくさんのボランティアの方々に支えられ取り組んできました。この素晴らしい全国の協力者の皆様とこれからも一緒に活動が続けていくことには変わりはないのですが、そこにもっと地元の人たちが加わり、地域に根差した活動へ発展させていきたいと考えています。そのために運営方法を少し変更します。

これまでNPO法人トチギ環境未来基地がプロジェクトの事務局を担ってまいりましたが、平成28年4月より震災後いわき市に誕生したNPO、フクシマ環境未来基地が事務局を担います。地元いわき市の大学生などにも運営に加わってもらい運営していきたいと考えています。



フクシマ環境未来基地の現在

フクシマ環境未来基地も設立から4年が経ちました。平成25年に拠点をいわき市中心部から、郊外の三和町下三坂に移し、三和町での森づくり活動などを中心に地域活動を展開してきました。拠点となる古民家の改修も進み、いよいよ平成28年度より、Conservation Corpsプログラムを実施します。

高齢化、過疎化の進む地域で若者たちの力をいかしながら、森づくり、田んぼや畑作業、集落で必要な作業に取り組んでいきます。スタッフも少し増え日常活動の充実と組織強化も図っていきます。



団体の顔ともいえるロゴマークとパンフレットが新しくなりました！



団体ロゴマーク



団体の内容がよくわかるA4パンフレット



ボランティア活動の内容がわかる三つ折りパンフレット



☆森ボランティアと団体をつなぐHP ができあがりました。

【 若者よ 森へ出よう！ 】
<http://moribora.jimdo.com/>

活動している若者の声をまとめた冊子もできました。「どんな人が活動しているのか？栃木県にはどんな団体があるのか？」そんな疑問におこたえます！

* 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金の助成を受けて作成しました。



☆竹林整備を行っている那珂川に関するHP もできました。

【 那珂川につながる里山を手入れする@茂木町 】
<http://nakagawa-teire.jimdo.com/>

団体がはじまってから、那須烏山市内、茂木町で竹林整備を行ってきました。那珂川流域の竹林整備などを通して里山整備のアピールするためのページです。

* 株式会社かんぽ生命保険からのフィナンソロピーバンクを受けて作成しました。

○ 各メディアへの掲載 ○

- ・「木を植える音楽」(2015年6月1日 No.596 TonTon)
 —「苗木forいわき」プロジェクトの寄付CDについて
- ・里山から花火をみませんか (2015年8月7日 朝日新聞)
 —宇都宮市平出のあさひが丘での宇都宮花火鑑賞会について
- ・「民」の力で復旧支援 生活復興センター設立
 (2015年10月5日 下野新聞)
 —かぬま市民生活復興センターの設立について
- ・ボランティア情報(2015年11月15日 vol.215
 とちぎボランティアネットワーク)
 —台風18号・関東東北豪雨災害のボランティア活動について
- ・「飛び立つ！とちぎの力」(2016年1月 同友)
 —公益社団法人 栃木県経済同友会 の会誌にて
- ・キーマンNPO法人トチギ環境未来基地
 塚本竜也理事長(2016年3月31日 読売新聞)
 —弊団体代表の設立の思いや事業内容について



みなさまから寄付での応援もいただいています

皆様からいただいた寄付は、活動の発展のために大切に使用させていただきました。

活動への寄付や募金箱設置のご協力

多くの皆様	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 様
たいらや株式会社 様	プルデンシャル生命保険株式会社 様
竜鳳株式会社 様	上松山小学校児童会 様
エコ配株式会社 様	さくら市教育委員会 様
アマゾンジャパン株式会社 様	とちぎの緑日実行委員会 様
連合栃木下都賀地域協議会 様	さくら市立喜連川中学校 様
ヘイコーパック株式会社 様	森と里のつながるマルシェ 様
有限会社高島油店 様	とちぎみらくるギフト 様
2tree open house 様	

補助・助成金

森林山村多面的機能発揮対策交付金事業	地球環境基金 助成事業
住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム2015	国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」事業
株式会社かんぽ生命保険からフィナンソロピーバンク	栃木県地域福祉振興基金(栃の実基金)事業

お振込みやクレジットカード決済以外でも寄付いただける仕組みを利用しています。



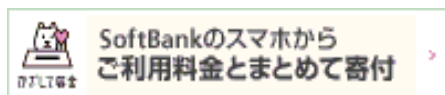
Tポイントで寄付ができる！

1ポイントが1円になります。
「Yahoo! ネット募金」から「トチギ環境未来基地」で検索。



毎日のワンクリックで寄付ができる！

一週間に3万ポイントで3千円の寄付になります。1日1回。
「Gooddo」から「トチギ環境未来基地」で検索。



Softbankから



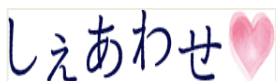
au / docomoから

携帯をかざすだけで寄付ができる！

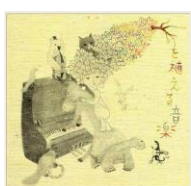
携帯をかざしたり、Softbankのスマホから
まとめて寄付できます。



過去メンバーのフィリピンのジェッサさんの団体を寄付で応援。
フィリピンの森を守るために、子どもたちに環境教育や
植林をおこなっています。



しえあわせ 記事投稿で「苗木forいわき」へ寄付



「木を植える音楽」CD
¥2,500で10本の植林ができます

欲しい未来へ、
寄付を贈ろう。



Giving
December

寄付月間 2015

寄付月間にも参加！

若者の活動を全国に広げるためにネットワークが構築されました。

JAPAN CONSERVATION CORPS NETWORK の実現に向けて 一若者が農山村に長期間滞在し、集落、環境、景観を維持するために活動するシステムを全国へ

農山村の課題

少子高齢化、過疎化によりこれまで
中山間地域を担っていた人の手が不足



- ・手入れのできない里山・森林の増加
- ・耕作放棄地の増加
- ・地域の祭りなどの行事の停滞、消滅等

解決策

若者が農山村に長期間（3ヶ月～）滞在し、
地域を維持する担い手となるシステムを作る

- ・里山・森林の整備を進める
- ・耕作放棄地を整備し、有効利用する
- ・祭りや行事を復活させ、地域を活性化

定住者を増やすのは難しくても、意欲ある若者が
常に地域にいて活動をするシステムは作れる。



★若者が長期間（3ヶ月～）チームで農山村に滞在し、
集落、環境を守る活動に取り組むプログラムを全国
各地へ！！

★ 海外の事例（モデルとなるプログラム）

Conservation Corps Program （コンサベーションコア・プログラム）

1年間、チームで環境保全を中心とする活動を行う。
米国では毎年2万人以上の若者が参加



- ・全米50州100箇所以上で開催
- ・20~40人程度の若者が期間チームで活動
- ・参加者数=23,170人/年

活動風景

2014年度 実績（全米）

植林本数：233万6725本
外来種の除去面積：191ヘクタール
建設/修繕したトレイルの距離：14,099km
(地球3週分)
創設/改善した緑地公園等：4,703箇所等

経験のない若者の集まりでも、運営・コーディネートを実施することで、これだけの成果を上げることができる！

The Corps Network （コア・ネットワーク）



アメリカ合衆国 内務省 国立公園局管轄の組織
コンサベーションコアプログラム実施団体をまとめる

コア・ネットワークの役割

- ・プログラム実施団体間のネットワークを強化
- ・各団体がより質の高い活動ができるよう、研修プログラムや専門的な見地からのサポートを提供
- ・コアプログラムの活動実績の公表、広報活動等

日本での活動拠点を増やす

※拠点とは、事務局+スタッフ+活動フィールドをセットとし、地域で調整を担い、日々の活動を丁寧にコーディネートできる機能

現在、以下の4拠点を若者のチームによる長期間（3ヶ月～）滞在型プログラムが行われています。この他にも現在プログラム開始に向けて準備中の地域が複数あります。



2014年度 実績（4拠点合計）

開催地：全国4箇所
参加者数：39人
延べ作業時間：11,135時間
森林・里山整備面積：24.9ヘクタール等



日本各地のプログラム概要

★北海道七飯町：大沼マイルストーン 22

活動ブログ <http://blog.livedoor.jp/milestone22/>



新日本三景に選ばれ、森と湖に囲まれた大沼国立公園。30年前は泳げる大沼であったが、近年は基準値の水質が保たれない状況が続く。若者ボランティアと地域住民がともに大沼流域の環境保全に取り組んでいる。平成25年7月、ラムサール条約湿地に。

アプに気をつけながら森林整備



★福岡県八女市：特定非営利活動法人 山村塾

団体ホームページ <http://www.h3.dion.ne.jp/~sannson/>
Facebook ページ <https://ja-jp.facebook.com/sannsonjuku>



八女茶発祥 600年の歴史がある棚田や茶畑の美しい農山村地域において、棚田での米作り、お茶やシシトウ栽培などの農作業の手伝い、遊歩道作りに取り組む。本地区は平成24年九州北部豪雨による激甚災害を受けた地域であり、元小学校校舎を活用した交流施設を拠点に、都市と農山村の連携による災害復興、地域づくりに取り組んでいる。

★栃木県芳賀郡：特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地

団体ホームページ <http://www.tochigi-cc.org/>
Facebook ページ <https://www.facebook.com/TochigiCC>



栃木県芳賀郡を中心に、日本だけでなくアジア諸国からの若者とともに、中山間地での森づくり、森の再生に取り組む。また、高齢者の健康維持を目的とした森づくりや、幼稚園生が安心して楽しく遊び、学べる森づくりなど、森の付加価値を高めるプロジェクトも行っている。

長期ボランティアがリーダーとなって、恒例イベントを開催

★NICE：特定非営利活動法人 日本国際ワークキャンプセンター

団体ホームページ <http://www.nice1.gr.jp/>
<https://www.facebook.com/nice.workcamp/>

若者ボランティアと、日本全国の地域団体との架け橋。全国各地の拠点と連携し、日本及びアジア諸国から長期間の活動を行うボランティアを募集し、参加者のトレーニングを行う。

設立年：1990年
会員数：1134名



★熊本県水俣市：特定非営利活動法人 植物資源の力

団体ホームページ <http://nponap.com/>



公害の原点といわれる水俣は、総理府指定の環境首都として、水俣病の記憶を教訓に環境問題の学びの場として活用してもらおうと、世界に発信を続けている。海・山・川の源流から河口までを小さな地域で抱える恵まれた自然環境をフィールドに、環境に対する様々な取組、実践活動を行っている。

長期プログラム参加者の声（大学生 R.J.I.さん 栃木県出身）

「充実」一言でこの活動を表すならば、この言葉が一番ふさわしいと思います。私はこれまで、海外や日本でのボランティア活動に何度か参加してきましたが、どれも期間は2週間程度で、毎日の生活やワークに慣れた頃には終わりを迎えていました。それに比べ、今回の活動は長期間だったので、土地にどっぷり浸かり、じっくり考え、がつり作業に取り組むことができました。プログラムは盛りだくさんで、地元の方と関わる機会が多かったです。地域のお祭りに参加した際には、地元の方々と一緒に盛り上げ、とても良い経験となりました。私たちのこれらの活動が地域の力に少しでもなれたら嬉しいです。



農山村地域にこの拠点がある意義

- ◆ 日本の農山村の豊かな自然環境が、若者の力により維持・再生される。
- ◆ 新しい地域の在り方を模索するための仕掛けを地域の中に持つことができる。
- ◆ 地域住民にとっては、開かれた地域を作り多文化共生社会を自ら作っていくきっかけが得られる。
- ◆ 日本を含め、アジア諸国の環境保全や地域づくりを担う若い人材を育成できる。



特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地
平成27年度 事業報告書

平成28年4月25日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地 事務局
発行責任者 塚本 竜也

連絡先
特定非営利活動法人トチギ環境未来基地
〒321-4104 栃木県芳賀郡益子町大沢2584-1

TEL/FAX 0285-81-5373

E-mail tochigi@conservation-corps.jp

URL <http://www.tochigi-cc.org>

Facebook <https://www.facebook.com/TochigiCC>

Twitter @tcc20090612